第６学年社会科学習指導案

日　時　平成１７年１０月１２日（水）授業２
学　級　６年２組 男 17 名　女 20 名　計 37 名
場　所　６年２組教室
授業者　教諭　武田　基

１　単元名「３　新しい日本の国づくりを見つめよう～新しい時代の幕あけ～」（教育出版上）

２　単元について

(1)　教材観

本単元は、学習指導要領第６学年２内容カ「黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。」に基づいて構成している。

本単元で扱う時代は、江戸幕府が倒れたことにより、武士による政治が終わり、明治天皇を中心にした政治の仕組みがつくられた時代である。廃藩置県や四民平等などの諸改革を始めとして、様々な政治や社会の仕組みが整えられた。また、欧米から様々な文化が取り入れられたことにより、人々の生活が大きく変化した時代でもある。それらの諸改革や新しい国づくりに尽くした人物の業績や考え方、新しい文化などを調べることを通して、我が国は、天皇を中心とした諸改革を行い、欧米から文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにすることがねらいである。

(2)　児童観

児童は、これまで、日本の国づくりにかかわって、大和朝廷、聖徳太子、聖武天皇、鎌倉幕府、江戸幕府などについて学習に取り組み、その政治の仕組みや文化、制度、人物の業績や考えについて学習を進めてきた。資料活用技能では、表象的な資料の読み取りから、既習事項を生かし、自分なりの解釈を付け加えた読み取りができるようになることを目標にして取り組んできた。しかし、解釈を付け加えた読み取りができる児童はまだ少数である。

事前テストの結果によると、半数弱の児童が、「文明開化」「明治維新」という言葉についてどこかで聞いたことがあると答えた。これは、特色ある様々な改革が行われたこの時代が、現代につながりをもち、児童が生活の中で耳にしたり、目にしたりしたことがあったことが理由として考えられる。しかし、その意味や内容、この時代の細かな政治の仕組みについては当然ながらほとんどの児童が知識をもっていない。１学期末に実施した、学習にかかわるアンケートによると、８２％の児童が社会科の学習に対して興味・関心をもっているという結果が出た。一方、苦手意識を抱えている児童の多くは、知識・理解面での難しさを感じている。このような実態から、児童の興味・関心を大切にしながら、正しい知識を身につける指導、資料活用技能を高め、歴史的な見方や考え方を深めるような指導が必要である。

(3)　指導観

指導にあたって特に重視する点は次の４点である。

①自らの問いを重視した単元構成・授業展開とする。

児童は、これまでの学習で、各時代で政治の仕組みが変わることや人物の国づくりに対する願いがかかわっていることが分かってきている。本単元の学習においても、既習の学習経験をもとにし、社会の仕組みが変化することについて、疑問をもたせ、児童の問いから学習課題づくりを行う。また、単位時間の学習においても、問いをもたせる発問を意図的に取り入れ深めるようにする。

②資料活用技能や、基礎的・基本的な学習技能の定着を重視する。

児童にとっては、学習内容を理解することだけではなく、これからの学習に生かすことができる技能を身につけることは大切なことである。特に、社会科においては資料活用技能を高めることが大切だと考える。そこで、読み取りの技能を高めることや身近な資料、例えば国語辞典や百科事典を用いて調べる習慣を身に付けさせることは、自ら学ぶ態度につながるものである。

③人物の思いや願いについて取り上げ、歴史的なものの見方や考え方を深める。

本単元の学習にかかわっては、様々な人物の業績に目を向けさせることが、歴史的なものの見方や考え方を深めるために有効であると考える。例えば、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允が新しい日本の国づくりにどのような願いをもっていたことに迫ることは、明治政府がめざした国づくりについて見方を深めることにつながるものと考える。

④視聴覚資料を効果的に活用する。

視聴覚資料は、児童の興味・関心を高めるだけではなく、その時代の生の映像に触れることができるという点で有効だと考える。そこで「NHK にんげん日本史」のクリップ教材を中心に、視聴覚資料を効果的に活用することで、子どもたちに豊かな学習の定着が図られるようにしたい。

3　単元の目標と評価規準

	目　　標	評　価　規　準
社会的事象への関心・意欲・態度	○明治政府ができ、欧米の制度や文化を取り入れて近代的な国家づくりが進められたことに興味をもち、その経過について意欲的に調べようとしている。	・黒船の来航を契機に長く続いた武士の支配が終わり、近代的な新しい国家をつくろうとする動きが出てきたことに興味をもち、その経過について意欲的に調べようとしている。
社会的な思考・判断	○日本が開国した様子や明治政府が近代国家としての仕組みを整えていった様子を、前の時代からの変化や外国との関係から考えることができる。	・開国による人々のくらしの変化、江戸幕府が倒れた理由や新しい日本の国づくりに尽くした人物の思いや願いについて考えている。
観察・資料活用の技能・表現	○年表や地図などの資料を活用して、開国に力を尽くした人物の業績について調べることができる。	・資料を活用して、開国に尽くした人物の業績について調べたり明治時代と江戸時代とのくらしの様子を比較して、何がどのように変化したのかを調べている。
社会的事象についての知識・理解	○日本の開国までの様子や明治政府が諸改革を行って、近代的な国家づくりを目指したことを理解することができる。	・黒船の来航をきっかけとして、日本が開国したことや明治政府が進めた諸改革の内容とそのねらいや影響を、改革に尽くした人物の業績とあわせて理解している。

4　単元の指導・評価計画（１０時間扱い）

段階	時間	目　標	主な学習活動 ○…学習活動 ☆…主な支援の手立て	評価規準 【評価の観点】 （評価方法）	評　価　規　準 具体の評価規準 A：十分満足できると判断する視点	B：おおむね満足できると判断する視点	努力を要すると判断された児童への手立て
とらえる	1	歴史年表をもとにして、新しい日本の国づくりについて興味や関心をもち、調べてみようとする意欲をもとうとする。	○新しい日本の国づくりについて学習課題を作ろう。 ・年表から知りたいことを考え、発表する。 ・発表をもとに話し合い学習課題を作る。 ☆視点を確認してから課題を作らせる。	明治政府の国づくりに関心をもち、調べてみようとする意欲をもとうとしている。 【関・意・態】 （発表・ノート）	明治政府の国家づくりに関心をもち、新しい制度や文化について、視点をもって調べる意欲をもとうとしている。	明治政府の国家づくりに関心をもち、新しい制度や文化について、調べる意欲をもとうとしている。	年表から、疑問に思ったことを文章化するようにする。
ふかめる	2	黒船の来航をきっかけにして日本の鎖国が終わったことと、外国と条約が結ばれたことを理解することができる。	○ペリーの来航で、日本はどう変わったのだろうか。 ・資料から読み取る。 ・開国によって結ばれた条約についてまとめる。 ☆条約の内容に着目させる。	黒船の来航をきっかけにして、日本が大きく変わっていたことを理解している。 【知識・理解】 （発表・ノート）	黒船の来航によって、日本の鎖国が終わったことと、結ばれた条約の内容について、日本と他国との関係を関連づけて理解している。	黒船の来航によって、日本の鎖国が終わったことと、結ばれた条約の内容について理解している。	結ばれた条約の内容を板書や友達の発言をもとにまとめさせる。
	3	開国による人々のくらしの変化を読み取り、江戸幕府が倒れた理由を考えることができる。	○開国によって、人々のくらしはどう変わったのだろうか。 ・人々のくらしへの影響を考え、発表し合う。 ・倒幕の理由を考える。 ☆視点を与えて資料を読み取らせる。	開国による我が国への影響、新しい日本の国づくりへの動きが始まったことを考えている。 【思考・判断】 （発表・ノート）	開国による人々のくらしの変化を読み取り、幕府が倒れた理由を新しい国づくりの動きと関連づけて考えている。	開国による人々のくらしの変化を読み取り、幕府が倒れた理由を考えている。	武士の力が弱まっていった過程について、友達の発言をもとに考えさせる。

ふかめる	4・5	開国のために力を尽くした人物について調べ、まとめることができる。	○世の中を変えようとした人たちを調べよう。 ・西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允などから人物を選びその業績を調べる。 ・調べたことを発表し、それぞれの新しい国づくりへの思いを深める。 ☆視点を与えて調べさせる。	新しい国づくりのために尽くした人物について調べ、まとめている。 【技能･表現】 （観察･ノート）	新しい国づくりのために尽くした人物について、新しい日本の国づくりへの願いをまとめている。	新しい国づくりのために尽くした人物ついて調べ、まとめている。	資料を精選して提示し、まとめさせる。
	6	明治政府の行った改革の内容を調べ、政府がどのような国づくりを目指したのか、その特色をとらえることができる。	○新しい政府は、どのような国づくりを目指したのだろう。 ・新しい制度について調べる。 ・調べたことをもとにまとめる。 ☆ VTR 資料を活用し、理解を深める。	新政府の進めた諸改革の目的と内容について調べ、政府がどのような国づくりを目指したのかを理解している。 【知識･理解】 （発表･ノート）	新政府の進めた改革ついて調べ、江戸時代とどう変わったかという視点で、政府の国づくりの特色を理解している。	新政府の進めた諸改革の目的と内容について調べ、政府の国づくりの特色を理解している。	廃藩置県、市民平等、兵役の義務に焦点化し、その内容を板書や友達の発言をもとに理解させる。
	7	明治政府が、産業を盛んにして国を豊かにしようとしたこと、近代的な軍隊を組織しようとしたことを理解することができる	○政府は、どのような改革を行ったのだろう。 ・政府が行った改革を調べる。 ・調べたことをまとめる。 ☆ 資料を読み取る視点を与える。	明治政府が近代工業をおこしたり、軍隊を組織したりしたことを理解している。 【知識･理解】 （発表･ノート）	明治政府が行った様々な改革を調べ、西洋に追いつくために様々な制度を整えていったことを整理し理解している。	明治政府が行った様々な改革を調べ、西洋に追いつくために様々な制度を整えていったことを理解している。	地租改正、徴兵令、官営工場について板書や友達の発言をもとに理解させる。
	8 本時	資料から、多くの西洋文化が取り入れられたことを理解し、日本が、西洋の文化を取り入れようとした理由を考えることができる。	○明治時代になって、人々のくらしはどのように変化したのだろうか。 ・江戸と明治のまちの様子について比べながら読み取る。 ・発表をもとにまとめる。 ☆「なぜ文化を取り入れたのか。」という第２課題を与える。	日本が西洋の様々な文化や制度を取り入れた理由を考えている 【思考･判断】 （発表･ノート）	明治時代になって、日本が西洋の様々な文化や制度を取り入れた理由を外国との関係と関連づけて考えている。	明治時代になって、日本が西洋の様々な文化や制度を取り入れた理由を考えている。	友達の考えや板書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。
	9	西南戦争や自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治に対してもっていた願いについて考えることができる。	○人々は、政府にどのような政治をしてほしいと願ったのだろう。 ・西南戦争について調べる。 ・自由民権運動へ対する人々の願いについて考える。 ☆ VTR 資料を活用し、理解を深める。	自由民権運動が高まった理由を理解し、国民の政治に対する願いを考えている。 【思考･判断】 （発表･ノート）	自由民権運動が高まった理由を理解し、国民の政治に対する願いと国会開設に尽くした人物の思いと関連づけて考えている。	自由民権運動が高まった理由を理解し、国民の政治に対する願いを考えている。	板書や友達の発表をキーワードにして考えさせまとめさせる。
	10	大日本帝国憲法について調べ、明治政府が目指した政治を理解することができる。	○大日本帝国憲法についてくわしく調べよう。 ・憲法制定までの過程を調べる。 ・憲法の内容についてまとめる。 ☆伊藤博文の業績から深める。	大日本帝国憲法を調べ、憲法によって整えられた近代国家のかたちを理解している。 【知識･理解】 （発表･ノート）	大日本帝国憲法制定までの過程を調べ、近代国家のかたちが整えられたことを多面的に理解している。	大日本帝国憲法制定までの過程を調べ、近代国家のかたちが整えられたことを理解している。	大日本帝国憲法の制定の過程、その内容について友達の発言を手がかりにまとめさせる。

5　本時の指導（８／１０）【モデル学習】

(1)　目標

資料から、多くの西洋文化が取り入れられたことを理解し、日本が、西洋の文化を取り入れようとした理由を考えることができる。

(2)　本時の指導にあたって

資料もとにして、日本に多くの西洋の文明が入ってきたことや新しい制度が整えられたことを理解させる。また、日本が西欧化した理由を考えさせ、話し合わせることを通して日本にとって、文明開化がどのような目的があったのかについて考えを深めるさせることをねらいとする。具体的な支援の手立ては次の３点である。

・最初に、明治初めごろの東京を描いた絵資料から、西洋文明はどれかという視点で読み取り、発表させる。また、既に学習した開国直後の江戸のまちの様子を描いた絵資料と比較させ、違いをとらえさせる。

・発表をもとに、文明開化によって取り入れられた文化や制度は、今の児童の生活にも欠かせない身近なものであることをとらえさせる。また、資料から、なぜ国は、西洋の文化を取り入れようとしたのかという観点で話し合わせることを通して、アジア地域の中での日本と欧米との関係について考えさせる。

・児童の考えが深められた段階で、文明開化が起こった理由について考え、まとめさせる。

(3)　展開

段階	学習内容・学習活動	支援の手立てと評価の観点	準備・資料
とらえる 3分	1　学習課題をつかむ。 明治時代になって、人々のくらしはどのように変化したのだろうか。	・江戸時代との雰囲気の違いを発表させ、課題につなげる。 ・本時の学習の進め方を確認する。	拡大資料 紙板書
ふかめる	2　資料から、明治時代に始まった文化や制度を読み取る。 (1)　読み取ったことをノートに書く。 (2)　発表する。 ＜資料から＞ ・レンガづくりの建物 ・電灯（ガス灯） ・馬車 ・人力車 ・かさ ・髪型（ざんぎり頭） ＜教科書から＞ ・小学校ができた。 ・新聞が発行された。 ・郵便制度が始まった。 ・鉄道が開通した。 ・電話が開通した。 3　第２課題を設定する。 なぜ、日本は西洋から文化を取り入れようとしたのだろうか。	・資料を読み取るときの視点を発表させてから取り組ませる。 ・資料だけでなく、教科書から明治時代に始まった制度を探すよう指示する。 ・絵資料から読み取ったこと、教科書から読み取ったことを分けて発表させる。 ・絵資料から読み取ったことの発表は、プロジェクターで拡大資料を写し、発表児童が資料のどの部分を指摘しているのかを明確にする。 ・西洋から文化が取り入れられ、人々のくらしが変化したことを文明開化ということをおさえる。 ・日本が西洋から多くの文化や制度を取り入れた理由について、欧米諸国と日本の文化の発展の比較、アジア諸国における欧米諸国の進出の様子から考えさせる。	パソコン プロジェクター 拡大資料 拡大資料

<table>
<tr>
<td>３７分</td>
<td>４　課題についてノートにまとめる。

【評価規準Ｂの例】

明治時代になって、イギリスなど外国の文化が進んでいることを知り、外国に負けたくないという気持ちでたくさんの文化や制度を取り入れた。
（アジア諸国の様子を含めていればＡ）</td>
<td>・まとめさせる支援の手立てとして、板書をキーワードとして使うように促す。

【評価規準】（思考・判断）
開国によって、日本に様々な文化や制度が取り入れられた理由を考えることができる。（ノート）
<table>
<tr><td colspan="2">具体の評価規準</td><td rowspan="2">努力を要すると判断された児童への手立て</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td></tr>
<tr><td>明治時代になって、日本が西洋の様々な文化や制度を取り入れた理由を外国との関係と関連づけて考えている。</td><td>明治時代になって、日本が西洋の様々な文化や制度を取り入れた理由を考えている。</td><td>友達の考えや板書にあるキーワードにしてノートにまとめるように支援する。</td></tr>
</table>
</td>
<td>資料
拡大地図</td>
</tr>
<tr>
<td>まとめる

５分</td>
<td>５　本時の学習を振り返る。
・自己評価
・学習感想</td>
<td>・自己評価は、２観点（１意欲、２文明開化による人々のくらしの変化を考えノートにまとめることができたか。）３段階（A～C)、で行う。
・学習感想の中では、友達の発表の中で見つけたよさを記入するように指示をし、発表を通して相互評価とする。</td>
<td></td>
</tr>
</table>

(4)　板書計画

明治時代になって、人々のくらしはどのように変化したのだろうか。

なぜ、日本は西洋から文化を取り入れようとしたのだろうか。

レンガづくりの建物
電灯（ガス灯）
人力車
かさ
髪型（ざんぎり頭）
牛鍋

小学校
新聞
鉄道
電話
郵便

外国が進んでいる。
取り残されてしまった。
外国に負けたくない。

文明開化